

平成28年度 神奈川経済専門学校関係者評価報告書

平成29年6月13日
 学校法人神奈川経済専門学校
 神奈川経済専門学校
 学校関係者評価委員会

学校法人神奈川経済専門学校 神奈川経済専門学校関係者評価委員会は、平成28年度自己点検・自己評価報告書に基づき、平成29年6月13日に委員会を開催し、評価・意見の取りまとめを行いました。その内容を以下のとおり報告いたします。

神奈川経済専門学校関係者評価委員会規程第2条に基づき次の選出区分から委員を4名委嘱しております。

- (1) 監事 大木 恵子 氏
- (2) 卒業生、保護者、地域住民等の学校関係者 林 月云 氏 卒業生
- (3) 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業等の職員学校関係者
 原 正幸 氏 株式会社丸大興商ハラ・グループ本部取締役社長
 津山 隆雄 氏 フォローアップ研究の会代表 元相模原市立青根小学校長

評価は、上記選出区分から委嘱された委員で構成される学校関係者評価委員会が、学校自らが実施した「自己評価」の結果について評価することを基本として行う評価で、ホームページ等に公表いたします。

本校といたしましては、学校関係者評価の結果を踏まえ、今後も学校関係者と連携・協力し、教育の質の向上、学校運営の改善、強化を図り取り組んでまいります。

基準項目ごとの学校自己評価及び学校関係者評価・意見

基準項目	中項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	評価総括並びに改善方策	自己評価の妥当性	改善方策の妥当性
基準1 教育理念・目的・育人人材像等	理念・目的・育人人材像は定められているか	5	教育理念を明確に定め学校内の各所に教育理念を掲げ、HP、各所案内板、発行物等にも明示している。	A	○
	学校の特色はなにか	4	小規模校の良さを活かしてコミュニケーションを十分取りながら「ひとりひとりを大切にする」指導及び生活面のケアを実施している。	B	○
	学校の将来構想を抱いているか	3	平成26年度以降は、60名程度の入学生確保が出来ている。平成28年度は常勤職員の増員と組織体制の一新を図り、改革の端緒とすることが出来た。	B	○
学校関係者評価・意見 教育理念に沿った経営が、地道な日常活動を積み上げる結果となっている。そのことが、安定した在籍生の確保に繋がっている。					

基準項目	中項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	評価総括並びに改善方策	自己評価の妥当性	改善方策の妥当性
基準2 学校運営	運営方針は定められているか	4	毎年3月に事業計画案を役員会に諮り、基本方針を明確に定めている。	B	○
	事業計画は定められているか	4	毎年3月に事業計画案を役員会に諮り、基本方針を明確に定めている。	B	○
	運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	4	学校法人神奈川経済専門学校常勤職員事務分掌に基づき、意思決定の速さと柔軟な組織対応でより効率的な運営を図っている。	B	○
	人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	4	関係諸規定の整備は実施済である。小規模校ではあるが、賃金(定期昇給)・賞与(5.6月)等の処遇について公務員と比較しても最大限の配慮しながら処遇の改善に努めている。	B	○
	意思決定システムは確立されているか	3	学校法人神奈川経済専門学校組織図のとおり確立されている。常勤職員の会議等を通して意思決定を図っている。	B	○
	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	ホストPCを導入し、ネットワーク利用で業務効率化を図っている。貸与PCも3年を目途に更新を図っている。	B	○
	学校関係者評価・意見 社会情勢の変化にどう効率的に対応し得るか。そうした強い問題意識が、運営方針に即した迅速な意思決定の基になっている。				
基準項目基準項目	中項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	評価総括並びに改善方策	自己評価の妥当性	改善方策の妥当性
基準3 教育活動	各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	4	教育課程編成委員会により教育理念と業界の人材ニーズの連動を図っている。キャリアアドバイザーによる支援体制は、平成28年度からは常勤2名としている。	B	○
	各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか	4	優秀な講師の安定確保等が進み検定試験の合格率などで成果をあげている。平成21年度から在籍生徒及び教職員に配布するガイドブックに各教科のシラバスを掲載している。教育課程編成委員会の機能を十分活用し、職業教育の充実を図っている。	B	○
	カリキュラムは体系的に編成されているか	4	カリキュラムの編成体制は明確になっている。体系的な整備に向けて教育課程編成委員会の機能を十分活用して連携を図りながら充実を図っている。	B	○
	学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか	3	毎年カリキュラムの内容見直しと整備を定期的に進める。平成21年度よりシラバスの作成を実施。平成26年度より学則への適正な位置付けを図る整備を進めている。更に平成28年4月からの秘書学科の廃止、平成29年度からのキャリアクス新設などの準備を進めた。	B	○
	授業評価の実施・評価体制はあるか	3	学校長が実際に授業を見たり、担当教員とのヒアリングを通して把握に努めている。併せて学校関係者評価委員会の機能を十分に活用していきたい。	B	○

	育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	学歴、資格取得実績及び経験豊かな教員の確保に努めている。非常勤講師の待遇やモチベーションを高める方策を模索しながら学校と目標の共有に努めている。キャリアクラスの新設に向けて英語が堪能な外資系企業の元マーケティング部長を講師採用した。	B	○
	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4	成績評価・単位認定は、学校の経営的な判断より先に各担当教員の判定を尊重している。平成 28 年度に改めて生徒の進級・卒業判定のガイドラインを策定した。	B	○
	資格取得の指導体制はあるか	4	全国経理教育協会主催の能力検定試験に対応した科目編成になっており、各教員とも資格取得の大切さと検定受験の奨励及び取得に向けたサポートを実践している。TT方式の導入や授業以外の補講について希望者を対象にきめ細かく対応している。	B	○
<p>学校関係者評価・意見</p> <p>教育活動を充実させたいとする意識を象徴するのが「日本人向けキャリアクラスの新設」である。教育課程編成委員会の機能の更なる浸透と相俟って、教育活動は質的向上が顕著である。</p>					
基準項目基準項目	中項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	評価総括並びに改善方策	自己評価の妥当性	改善方策の妥当性
基準 4 教育成果	就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	4	キャリアアドバイザーによる支援体制は、平成 28 年度からは常勤 2 名としている。求職者就職率は年々向上している。平成 28 年度就職率 84.0% (前期対比 23.1%増)	B	○
	資格取得率の向上が図られているか	4	教員の努力により毎年、資格試験の受験者数と合格者数は堅調であり、資格取得の重要性についての認識が浸透してきている。	B	○
	退学率の低減が図られているか	4	応募者の増加により入試判定基準を厳しくし、合格者を厳選して退学率の低減に努めた。退学率は、12.9%で前年度(18.3%)からの改善が図られた。	B	○
	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	平成 26 年 3 月に卒業したネパール学生が大学でロータリークラブ 米山奨学金受給者に決定した。第 28 回日本語スピーチ大会において、インドネシア学生が優秀賞を受賞した。神奈川県主催のベトナム人留学生によるスピーチ大会で優秀賞を受賞した。	B	○
	<p>学校関係者評価・意見</p> <p>全体としての教育成果は、就職率の向上・資格試験者数増加・合格者数増加・退学率の低減等に表れている。また卒業生・在校生の個人的な活躍も目立ち始めている。日常的な指導が創意工夫されていることの証でもある。</p>				
基準項目	中項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	評価総括並びに改善方策	自己評価の妥当性	改善方策の妥当性
基準 5 学生支援	就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか	4	キャリアアドバイザーによる支援体制は、平成 28 年度からは常勤 2 名としている	B	○
	学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	4	キャリアアドバイザーによる支援体制は、平成 28 年度からは常勤 2 名として、進学・就職に分けて分担している。英語・中国が堪能な職員を採用	B	○

			して言語サポートにも配慮している。平成 29 年度に向けて「プライバシー」に配慮した学生相談室の整備を進めている。		
	学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか	4	留学生については、潤沢に母国からの経済援助を受けている者は少なく、アルバイト収入確保を優先するあまりに勉学意欲を失わないような経済的支援の有効的な方法を常に考えている。平成 23・24 年度は、奨学金制度の受給対象者数の増加を図った。また、教材費と指定検定料の無料化を実施している。	B	○
	学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか	4	生徒の健康管理等に対して迅速な対応が可能のように近隣の医院と提携して進学時の健康診断や健康相談等の問題に対応できるようにしている。	B	○
	課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか	4	学校以外が主催する各種イベントや NPO 団体、ロータリークラブが主催する公演会等への参加支援ができる体制を整えている。	B	○
	学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	4	留学生住宅総合補償の制度に学校として加入しており、保険の加入を通して保証人対応をしている。緊急連絡先の登録など留学生の要望に対応している。	B	○
	保護者と適切に連携しているか	2	アジアからの留学生のため、日本に保護者がいるケースがまれである。保護者がいるケースで問題のある生徒については、学習状況等を報告しながら連携を取り対応する。	C	○
	卒業生への支援体制はあるか	1	今後、同窓会組織がうまく機能するような働き掛けが必要であり、卒業生が在校生にアドバイスをしてもらおうような交流の機会等を設けていきたい。SNS や来校を通じて卒業生の相談に対応している。	C	○
<p>学校関係者評価・意見</p> <p>学生の圧倒的多数は留学生である。しかも経済的支援を必要とする学生も相当数いる。こうした状況下で、学生の願いを叶えるために支援体制を絶えず工夫している。その姿勢を評価している。</p>					
基準項目	中項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	評価総括並びに改善方策	自己評価の妥当性	改善方策の妥当性
基準 6 教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	平成 18 年度から老朽化したトイレ改修を始めとしてクロス・天井の塗装、パソコン教室整備、屋上のガイア塗装（断熱効果向上と漏水予防）と整備を計画的に実施し、平成 22 年度は、校舎外壁のガイア塗装を実施した。その後省エネタイプのエアコンへの交換、教室プロジェクター及びスクリーン設備の増設を行った。照明の LED 化など教育環境の向上のための整備を実施している。平成 28 年度は、生徒への教育サービス充実のための職員増に対応し事務室の拡張整備を行った。	B	○
	学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3	相模原産業振興財団主催の市内企業見学会に参加した。平成 28 年 6 月 29 日に西武信用金庫と「包括的連携・協力に関する協定書」を締結した。今後更に連携を進めていきたい。	C	○

	防災に対する体制は整備されているか	4	防災に対する体制を整備するため、ハード面の機器点検はもちろんのこと意識や緊急時な対応ができるように生徒並びに教職員への啓発及び訓練を実施し、災害時に有効に機能するよう努めている。	B	○
学校関係者評価・意見 キャリアクラスの新設、職員増、学生への更なる教育サービス向上等に対応するために環境整備が行われている。学生の意欲向上・教育成果に繋がることが期待される。					
基準項目	中項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	評価総括並びに改善方策	自己評価の妥当性	改善方策の妥当性
基準7 学生の募集と受け入れ	学生募集活動は、適正に行われているか	4	平成29年4月からの日本人向けキャリアクラス新設に向けた募集活動を実施した。直接訪問により近隣学校との連携を密に取るなど信頼関係の構築に努めている。	B	○
	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	学校案内に直近の進学・就職実績を掲載し、資格試験の合格実績についてもHPを通じて公表している。オープンキャンパスを開催して情報を提供している。	B	○
	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	4	学習意欲や退学率の課題もあり、平成20年度から選考を厳しく行い、教職員の選考レベル認識の共有化を図りながら、質の高い入学生徒の獲得に力を入れている。	B	○
	学納金は妥当なものとなっているか	4	経済的な面を考慮して、学費を低く抑え、教育サービスの充実を図っている。学費の負担感以上の満足度が高められるように毎年新たな試みも行い工夫をしている。教材費と指定検定料の無料化を実施している。	B	○
	学校関係者評価・意見 日本人向けキャリアクラスの新設は特筆に値する。質の高い入学生の確保が実現しつつあるのは、不断の学生生活が基になっている。学生の経済的な負担に配慮し、更に工夫改善して教育のサービスに努めることが求められる。				
基準項目	中項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	評価総括並びに改善方策	自己評価の妥当性	改善方策の妥当性
基準8 財務	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3	財務基盤の安定に向けた努力により、平成19年度決算から黒字基調への転換が図れた。平成29年度からのキャリアクラスの新設など中長期的な安定に向けての努力を継続していきたい。	B	○
	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3	中長期的な安定に向け、安定的な在籍生徒数を確保する努力を行い、平成19年度から黒字決算基調となっている。	B	○
	財務について会計監査が適正におこなわれているか	3	財務について会計監査を適正に行っていただくため、財務に精通した地方公務員出身者をお願いしている。	B	○
	財務情報公開の体制整備はできているか	4	財務情報公開のため規程を整備し、HPで公開する体制になっている。職業実践専門課程の要件を満たす情報公開体制が整備された。	B	○
	学校関係者評価・意見 キャリアクラスの新設によって、財政基盤の安定化を図る更なる努力が求められることになる。中長期的な観点から創意工夫が求められる。				

基準項目	中項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	評価総括並びに改善方策	自己評価の妥当性	改善方策の妥当性
基準9 法令等の遵守	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	小規模校の利点を生かし、教職員及び学生に対する周知徹底に努め、適正な運営を行うチェック機能を有効にするよう一層の努力をしていきたい。	B	○
	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3	個人情報に対して、規程を設けその保護に努めている。	B	○
	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4	平成20年度から初導入し、毎年3月に自己点検・自己評価を実施する体制ができている。平成25年度は、学校関係者評価委員会を設置し、平成28年度も委員会を開催して学校関係者評価報告書をまとめていただいた。	B	○
	自己点検・自己評価結果の公開はしているか	4	平成21年度に実施し、以降年度内に公開できるようにしている。職業実践専門課程の要件を満たすHP等を通じての情報公開体制が整備されている。	B	○
	学校関係者評価・意見 法令及び設置基準等の遵守と適正な運営について、常に周知徹底に努めている。自己点検・自己評価についても改善に努めている。学校関係者評価委員会が機能しているからである。				
基準項目	中項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	評価総括並びに改善方策	自己評価の妥当性	改善方策の妥当性
基準10 社会貢献	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	4	地域の方を対象とした中国語教室の開催や全国経理教育協会主催の検定試験会場として自校生のためだけでなく外部受験者の便宜を図るため受付時間の柔軟な対応など経営面のみを追求することなく取り組んでいる。平成27年度には、地域の方々へ芸術作品を鑑賞してもらうため「橋本アートギャラリー（駐車場内）」を設置し、年3回程度の作品切替え展示を行っている。毎年インターネット被害未然防止講座（神奈川県委託授業）に会場提供をしている。	B	○
	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3	NPO 団体等の公演会に積極的に生徒を参加させて、ボランティア活動に対する理解を深める場としている。	B	○
	学校関係者評価・意見 社会貢献を積極的に果たしている。地域への貢献・NPO 団体との交流が学生の意識を高め理解を深める契機になっていて、貴重な経験となっている。				

【注記】

※達成状況は

5 完璧 4 かなり進んでいる 3 普通 2 やや足りない 1 ほとんど進んでいない NA 当てはまらない

※学校関係者評価は

自己評価の妥当性

A 目標を十分達成している B 目標を達成している C 目標をほぼ達成しているが改善の余地がある

D 目標を達成するにはいくつかの課題がある E 課題が多く改善が必要

改善方策の妥当性

○ 妥当 × 方向性が違う - 該当なし